

## 2008年度事業計画

尾崎行雄生誕150周年にあたる本年は、米国の道義的指導力の失墜、ロシアに加え、中国、インド、ブラジルの台頭など、大きく変貌する世界にあって、日本は、どのような義務と責任を果たしていくべきかを問い研究する年にいたします。「名実ともに、人類最高の理想の象徴であると世界中に承認された」、と尾崎が誇る日本国憲法のもと、あらためて「全世界の人々が、恐怖と絶望から免れ、平和のうちに生存する権利をまっとうできるよう」、私たちは具体的に何をすべきかを研究・発展させる目的で各事業を行ないます。「罌堂塾21」など、人材・リーダー育成事業では、世界を舞台として活動・貢献できる人作り、尾崎流に言う「世界の浪人」、地球市民造りを目指します。「罌堂記念講演会」においては、日本の存続と繁栄は世界に愛され、尊敬される国になることにより確保される、との尾崎の信念に基づき、知識を広く世界に求め、志を同じくする内外の個人・諸団体と提携することにより活動の場を広げることを目指します。このため、海外の有識者に財団の顧問就任をお願いすることとしました。

### 1) 月刊『世界と議会』の刊行 (No. 523~533)

内外の政治、経済、社会、教育など様々な問題を取り上げ、専門家や政策決定者の主張、また有権者の意見などを掲載します(8・9月は合併号)。本誌は、引き続き、当財団会員、官公庁、図書館、自治体等へ広く配布します。本年度から特に、一般読者に対してより読みやすく、親しみやすいものにするため、随筆、特別寄稿、理事長対談などを掲載します。

### 2) 「罌堂塾21」の開催 (協賛(予定): タカラベルモント(株) / (財) 原田積善会 / (株) ニフコ / ほか)

罌堂塾は、世界的視野で判断・行動できるリーダーならびに健全な有権者の育成を目的としています。特に本年度は、CRT(経済人コー円卓会議)との事業提携・プログラムの共有を図りつつ、人材の交流・確保に努めます。また、講義では、海外の講師も検討します。

- ①「罌堂塾」講義の開催(基本プログラム): 08年4月~09年1月(10ヶ月間: 16回講義: 合宿1回)
- ②「海外研修視察」の実施(国際プログラム): 他団体と連携して実施(他団体のプログラムに沿った日程・内容で塾生に案内を行なう)
- ③「政策決定現場視察」の実施(実践プログラム): 塾講義期間中5回程度実施予定(党の部会・委員会の見学等)
- ④「尾崎財団・地方自治ネットワーク」を対象とした公開講座の実施。 / ⑤ 卒塾生団体「罌志会」とのイベント交流・共同研修会などを予定。

### 3) 「罌堂記念講演会」の開催

内外の政治・経済・社会問題等について専門家や実践者を講師に招き(海外の講師も招きます)、講演会またはシンポジウムを行ないます。テーマについては、グローバリゼーション、外交・安全保障、地方自治、国際貢献など、時宜を得た問題を取り上げていきます。なお、講演内容については、『世界と議会』の特集記事あるいは特別枠として掲載します。

### 4) 「罌堂政経懇話会」の開催

様々な分野の専門家、実践者をゲストに迎え、そのテーマについて共に考え学びながら、加えて出席者相互の交流を図ることを目的としています。本会は、一昨年度から、参加対象を罌堂塾生・罌志会会員や財団一般会員などに拡げ、新たに「罌堂政経懇話会・特別メンバー」として募っています。現在のメンバー数は33名。本年度も引き続きメンバーの維持・拡大と、より深いネットワークの構築を促していきます。

### 5) 「総合政策研究会」の開催

この研究会は、今日の日本や世界が抱える中長期的な課題について研究し、提言（情報発信）することで、市民や政治家に新たな問題提起を行ない、その課題解決に向けての議論の喚起と意識の啓発を目的としています。

昨年度に引き続き「政治倫理」をテーマに研究会を開催します。現在、全国自治体の政治倫理条例の設置状況とその内容の分析を進めています。

研究会メンバー：浅野一弘（札幌大学助教授）／岡崎加奈子（法政大学兼任講師）／高野恵亮氏（嘉悦大学非常勤講師）

中村虎彰氏（K I I S 研究員・当財団客員研究員）／宗像優氏（九州産業大学専任講師）／谷本晴樹（当財団研究員）

#### 6) 尾崎行雄生誕150周年記念事業の開催

本年は「尾崎行雄生誕150周年」という記念すべき年であることから、記念事業（記念書籍の刊行や式典・講演会の開催等）を行なう予定です。本事業は、尾崎行雄の理念・業績を改めて見直し、広く普及することを目的としています。そのため、尾崎の言行を編纂した書籍の刊行、併せて国会議員等によるシンポジウムや式典などを開催する予定です。

#### 7) ホームページの改善（リニューアル）と広報活動の強化について

本年度、ホームページを全面的にリニューアルします。近年、HPを通じての会員入会、講演参加申込、雑誌その他書籍類の購入が増えていることから、引き続きHPを有用な広報媒体として位置付け、その内容改善に努めます。

#### 8) 資料の収集／衆議院憲政記念館に対する協力

尾崎行雄の遺品、写真、遺稿及び議会政治関連資料を集め、一般公開するとともに、尾崎メモリアルホールの展示に協力します。また憲政記念館主催の行事に協力するとともに、資料の貸付及び旧尾崎記念会館に各国から贈られた記念品、樹木等の維持保存に関しても協力します。その他、憲政記念館を訪れる主に小中学生に対し、尾崎行雄の夢、憲政にかけた人生についての説明を行なう機会を開拓します。

#### 9) 財源について

- ①財団パンフレットやインターネットを活用しつつ、会員（個人・法人・議員）の維持・拡大、特に国会議員の会員拡大を図ります。
- ②『世界と議会』の広告収入の拡大を図ります。
- ③「尾崎財団公益事業基金」については、引き続き安全性を充分確保しつつ、柔軟且つ積極的な運用により果実の維持・拡大に努めます。
- ④当財団関連団体への会費協力などについては随時見直し、必要最小限にとどめます。

#### 10) 役員改選について

上記（冒頭）のとおり、知識を広く世界に求め、志を同じくする内外の個人・諸団体と提携することにより活動の場を広げることを目的として、以下の方々に財団特別顧問就任をお願いしました。

塩川正十郎（現）／サム・ジェームソン（現）／カレル・ヴァン・ウォルフレン（現）

ラジモハン・ガンジー（新）（マハトマガンジー孫）／デイビッド・クリーガー（新）（核時代平和財団理事長・号堂賞受賞者）

橋本徹（新）（ドイツ銀行会長・コー円卓会議会長）

ムハマド・ユヌス（※返答待ち）（グラミン銀行総裁・号堂賞受賞者）／ジェシカ・マシューズ（※返答待ち）（カーネギー平和財団理事長）